

山梨県南アルプス市

平成24年度埋蔵文化財試掘調査報告書

各種開発工事に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書

2014. 3

南アルプス市教育委員会

山梨県南アルプス市

平成24年度埋蔵文化財試掘調査報告書

各種開発工事に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書

2014. 3

南アルプス市教育委員会

例　　言

1. 本書は山梨県南アルプス市において平成24年度に実施した埋蔵文化財試掘調査報告書である。
2. 本事業は国宝重要文化財等保存整備費補助金・山梨県文化財関係補助金を受け、南アルプス市教育委員会が実施した。
3. 調査は田中大輔、斎藤秀樹、保阪太一が担当した。
4. 本書の執筆、編集は斎藤が行った。
5. 整理作業には、加藤由利子、小林素子、桜井理恵、塩澤宏紀、高畠美和、山路宏美が参加した。
6. 本調査で得られた出土品およびすべての記録は、南アルプス市教育委員会に保管してある。
7. 試掘調査から報告書作成まで、次の諸氏、諸機関にご教示、ご協力を賜った。記して感謝の意をしたい。(敬称略・五十音順)

畠大介、韮崎市教育委員会、公益財団法人山梨文化財研究所、山梨県教育委員会学術文化財課、山梨県埋蔵文化財センター

凡　例

1. 遺構図の縮尺はそれぞれ図に明記した。遺物実測図の縮尺は以下の通りである。

土器・・・・1/3

鉄製品・・・・1/1

2. トレンチ配置図および遺構図中で使用したスクリーントーンはそれぞれ図版中に凡例を示したが、原則は以下の通りである。

平面図



試掘坑

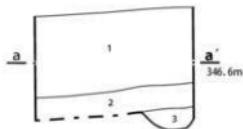


未発掘の遺構



カクラン

3. 遺構の断面図、基本層序図における「346.6m」等の数値は標高を表す。



4. 試掘調査地位置図は都市計画図を基に作成し、縮尺は百々・上八田遺跡と前御勅使川堤防址群は1/10,000、その他は1/5,000である。トレンチ配置図の縮尺は建築範囲に合わせて決定しているため統一しておらず、それぞれスケールを明記した。

目 次

例 言

凡 例

目 次

第Ⅰ章 平成24年度試掘調査概要	1
1. 南アルプス市概要	1
2. 調査概要	1
3. 今後の課題と展望	2
第Ⅱ章 平成24年度遺跡試掘調査概要	5
1. 六科・村北遺跡、前御勒使川堤防址群	5
2. 百々・上八田遺跡	13
3. 前御勒使川堤防址群	30
4. 下屋敷遺跡、無名墳	37

第Ⅰ章 平成24年度試掘調査概要

1. 南アルプス市概要

平成15年4月1日に八田村、白根町、芦安村、若草町、櫛形町、甲西町の4町2村が合併して生まれた南アルプス市は、甲府盆地の西部に位置し、総面積264.06km²、山梨県の面積の約5.9%を占めている。市西部は北岳(3,193m)をはじめ、間ノ岳(3,189m)、仙ヶ岳(3,033m)、鳳凰三山など3,000m級の山々が連なる南アルプス山系となっており、森林原野が市面積の約73%を占めている。一方市東部は南アルプスやその前衛巨摩山地から流下する御嶽使川や滝沢川、坪川等によって造り出された複数の扇状地が重なり合う複合扇状地となっている。市の東縁には釜無川が南流しており、扇状地が削られ氾濫原が造り出されている。

2. 調査概要

平成24年度の試掘調査は総数20件を数える（第1・2表）。南アルプス市制後、最小の件数となった。これは昨年同様に蓄積したデータを活用し、効率的な試掘調査を実施したことが要因のひとつではあるが、最大の要因は本年度開発申請数が過去最低の44件にとどまることに起因している（第3表、グラフ1）。

調査原因者を公共・民間別で見ると、公共の占める割合は20%とほぼ平均値を示した。開発行為における用途別では、宅地造成・分譲が8件、集合住宅が2件を数え、住宅関係の開発が試掘調査20件の内半数の調査原因を占めている。地区別では住宅地化が進む旧若草町内の宅地分譲等の開発が多か

調査原因	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	合計	
公共事業	道路	3	3	3	7	4	4	5	2	0	1	32
	学校	2	0	1	2	1	1	4	0	1	0	12
	その他の公共施設	2	1	4	0	2	3	0	5	1	3	21
	範囲確認調査	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	
	小計	7	4	8	9	7	10	9	7	2	46	
	公共事業の割合(%)	14.9	11.8	14.8	23.7	29.2	34.5	30.0	20.0	9.1	20.0	20.1
民間事業	個人住宅	12	2	3	5	3	2	5	9	3	0	44
	個人住宅兼店舗	2	1	2	0	0	1	0	0	0	0	6
	集合住宅	1	4	5	5	7	5	5	6	5	2	45
	工場	0	2	4	3	1	2	1	1	2	1	17
	店舗	8	3	3	1	1	0	3	0	3	2	24
	宅地造成・分譲	13	13	16	13	5	3	5	8	5	8	89
	倉庫	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	4
	駐車場	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3
	鉄塔	1	0	7	0	0	2	1	1	0	0	12
	その他	1	3	3	2	0	4	1	3	2	3	22
	小計	40	30	46	29	17	19	21	28	20	16	266
合計		47	34	54	38	24	29	30	35	22	20	333

第1表 平成15～24年度試掘調査原因一覧

第2表 平成24年度試掘調査一覧

No.	遺跡名・試掘名	調査地	対象面積 (m ²)	調査面積 (m ²)	トレンチ数	遺構	遺物	調査期間	調査原因
1	横田199-6	横田 199-6	2,991.5	8	1	なし	なし	2012年5月1日	目録
2	田中東条痕	知賀東 3215-1, 3217-1	1,087	9	2	なし	なし	2012年5月10日	宅地造成(付跡)
3	六科・村北遺跡、前御勒使(御跡跡群)	六科 1339-2	1,419.3	57.5	6	窓口状遺構、土坑、土列槽	土器、瓦類	2012年5月11～15日	宅地造成(付跡)
4	前御勒使(御跡跡群)	野川 232-13他	2,803.7	43	7	なし	なし	2012年5月23日～6月26日	目録
5	百々・上八田遺跡	上八田53-1他	58,000	584.54	31	窓口遺物、窓口遺構、土坑	土器、土列槽、漆器	2012年6月6日～7月23日	工場誘致
6	赤坂分遺跡	阿賀 478-他	1,678	131.13	10	窓口遺構、土坑	なし	2012年7月3日～9日、2013年2月26日、3月4日	公会堂建設
7	野川 1762-1, 1752-1	野川 1762-1, 1752-1	2,105	11.5	2	なし	なし	2012年8月15日	宅地造成(付跡)
8	中田町例4遺跡	中田 1663-1他	1,640	33	6	なし	土肆	2012年8月26日	宅地造成(付跡)
9	北林原1遺跡	小曾原 1772-3他	3,051	129.86	2	なし	なし	2012年9月10日	墓地施設
10	野牛原・家西遺跡	野牛原 2027-1他	1,413	19	1	なし	なし	2012年9月25日	宅地造成(付跡)
11	百々八遺跡群	横田 1669-1	2,227	21.6	2	なし	なし	2012年10月2日	宅地造成(付跡)
12	野牛原・石越遺跡	野牛原 2702-3他	1,982.2	34.83	2	なし	なし	2012年10月18、22日	下水道
13	前御勒使(御跡跡群)	野川 2336-1他	80,000	72.14	3	窓口等	なし	2012年11月2～28日	遺跡整備監視
14	福塚遺跡	小曾原 1084-1, 1085-1	1,729	7.8	1	なし	なし	2012年12月5日	福塚施設
15	上ノ平遺跡	高穴地内	15,000	68.77	9	なし	なし	2012年12月17、19日、2013年1月6日	農道
16	下深割遺跡、熊北堆	山寺 1103-2他	1,396	121.84	11	石室状遺構	土器、陶器、漆器類	2012年12月25～2013年4月6日	集合住宅
17	横田1750-1他	横田 1750-1他	2,323	25.23	4	窓口遺構	なし	2013年2月13～14日	宅地造成(付跡)
18	荒河川防砂床跡	十日市場 807-1	5,837.59	87.32	7	窓口遺構	なし	2013年2月26、22日	学校給食センター
19	野川 2475-2	野川 2475-2	1,044	22.68	2	なし	なし	2013年2月22日	集合住宅
20	今井新築2遺跡	舟部 1552-1	1,078	9.66	2	なし	なし	2013年3月13日	宅地造成(付跡)

った昨年と比べ、本年度は野牛島地区と桃園地区が3件、飯野地区と寺部地区が2件を数え、住宅関連の開発およびそれに伴う試掘調査の分散化が指摘できる。

3. 今後の課題と展望

平成24年度の日本経済は、東日本大震災からの復興需要などにより回復傾向にあったが、世界経済の減速等によって景気が弱い動きとなった。12月以降、大胆な金融政策や機動的な財政政策が展開され、世界経済の緩やかな回復とともに消費税増税の方針が固められたことから、集合住宅、宅地分譲の計画件数がやや増加した。以上の経済状況を反映して、開発件数は44件と過去最低となり、試掘調査件数も20件と過去最小を記録した。

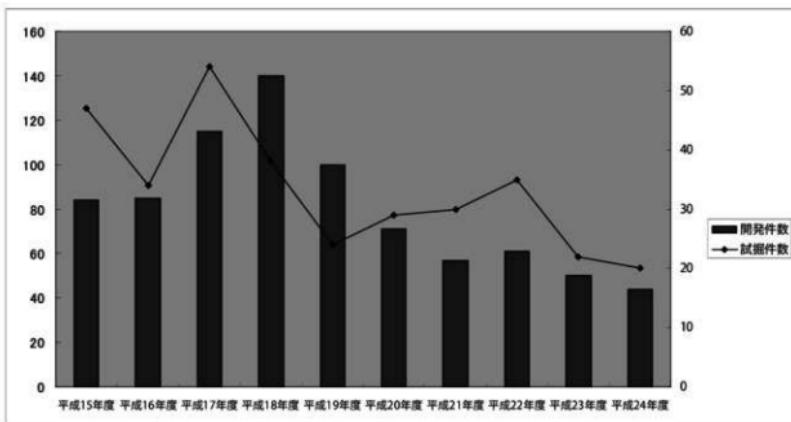
本年度主な遺構が検出された試掘調査を概観したい。六科・村北遺跡ほかでは中世の土坑や墓坑が検出された。調査地点が六科集落の本村と呼ばれる古い集落の中心に位置していることから、検出された遺構は六科集落の成立を考える上で必要不可欠な基礎資料となった。御勒使川扇状地扇尖部に立地する百々・上八田遺跡の試掘調査は、工場誘致に伴い平成20年度から断続的に実施してきた調査である。本年度調査の結果、約58,000 m²に及ぶ対象地域全体の遺構分布状況が明らかとなった。その状況は、南部が豊穴建物が多く遺構もやや濃密な分布を示すのに対し、北部は溝状遺構を中心でその分布もやや希薄であった。こうした成果は、調査地点東側に立地し中部横断自動車道建設に伴い発掘調査された百々遺跡の遺構分布状況とも合致し、御勒使川扇状地扇尖部の開発を考える上で重要な調査結果となった。約80,000 m²の場所整備に伴う前御勒使川の右岸に位置する前御勒使川堤防跡群の調査では、砂礫を主

体とする堤防が検出され、御勅使川の旧堤防の構造の一例を示す重要な資料が得られた。下屋敷遺跡では、帯状に延びる石壘状の遺構が検出された。数点の出土遺物から判断すると近世の所産と推測され、県内でも類例のない遺構である。

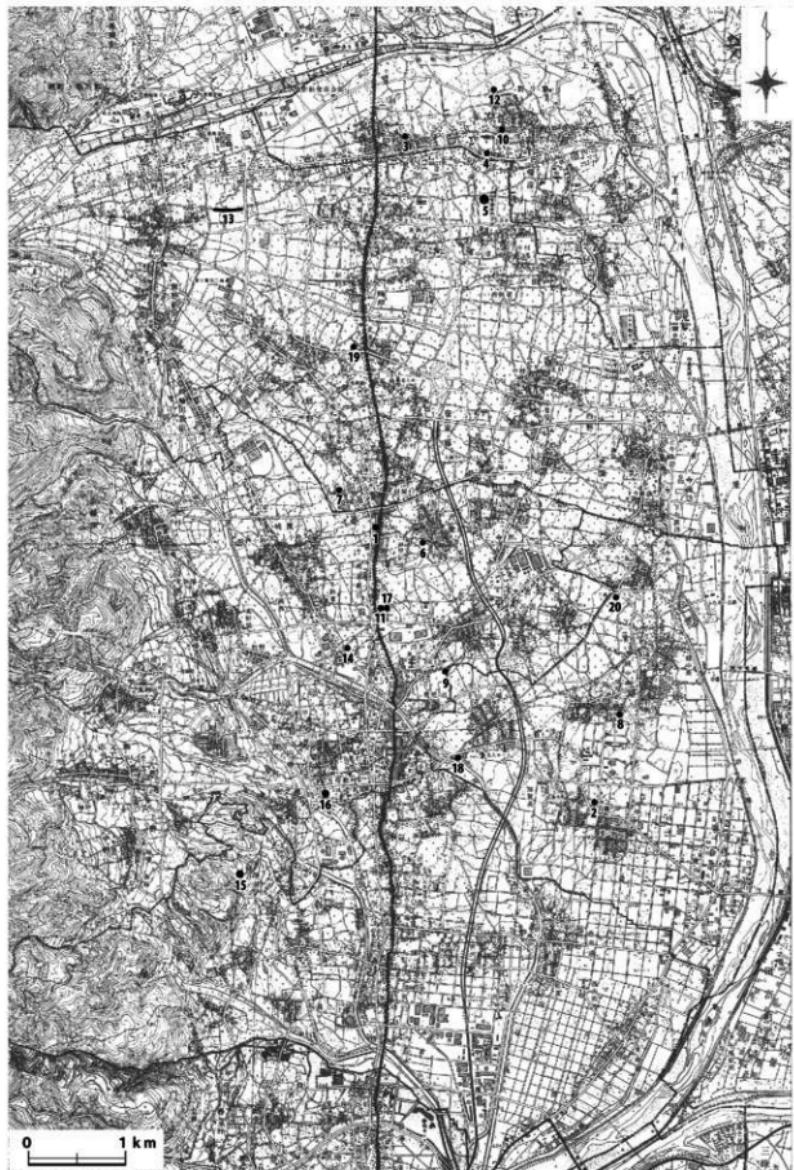
以上の結果から、下屋敷遺跡に見られるようにこれまで未検出の遺構が発見される場合もある。周知の埋蔵文化財包蔵地の詳細な把握は、埋蔵文化財を保護する土台であり、出発点でもある。今後も効率的で綿密な試掘調査とより精緻な埋蔵文化財包蔵地の把握が求められるだろう。

年度	開発件数	試掘件数
平成 15 年度	84	47
平成 16 年度	85	34
平成 17 年度	115	54
平成 18 年度	140	38
平成 19 年度	100	24
平成 20 年度	71	29
平成 21 年度	57	30
平成 22 年度	61	35
平成 23 年度	50	22
平成 24 年度	44	20
合計	807	333

第3表 年度別開発行為件数および試掘件数



グラフ1 年度別開発行為件数および試掘件数



第1図 試掘調査地点位置図 (1/50,000)

第Ⅱ章 平成 24 年度遺跡試掘調査概要

1. 六科・村北遺跡、前御勤使川堤防址群

調査地 六科 1539-2

調査原因 宅地造成（分譲住宅）

調査期間 平成 24 年 5 月 11 ~ 15 日

対象／調査面積 1,459.5 m² / 57.5 m²

調査概要

調査地点は御勤使川扇状地北部の扇央部に位置し、御勤使川旧流路である前御勤使川の左岸に立地する。この地点は六科・村北遺跡および前御勤使川堤防址群二つの遺跡に該当し、「本村」と呼ばれる旧六科村の中心地域でもあり、周辺には古くからの住宅が建

ち並んでいる。調査地の北側約 100 m の地点では平成 12 年度本調査が行われ、竪穴状遺構や土坑墓、掘立柱建物跡が検出されている。一方、遺跡名ともなっている前御勤使川堤防址群は、調査地点では検出されなかったことから、さらに南側に位置していると推測される。

本試掘調査は 4 区画の宅地分譲住宅建設工事に伴うもので、浸透井や下水道工事部分を中心に 6 箇所のトレンチを設定した。

発見された遺構と遺物

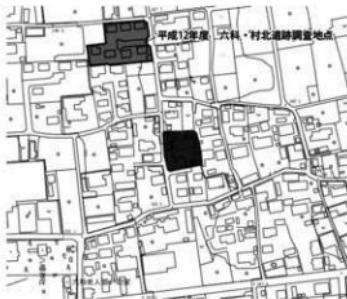
調査の結果、第 1 ・ 第 2 ・ 第 5 ・ 第 6 トレンチで遺構が検出された。その内、工事で掘削が予想される第 1 ・ 第 2 ・ 第 6 トレンチでは遺構の時期を確定させるため、遺構の調査を行った。

調査の結果、45 基の土坑が検出された。発掘した土坑については番号を付与した。土坑個々の形状や大きさについては土坑計測表を参照していただきたい。土坑のなかでも 10 号・12 号・19 号・24 号土坑は隅丸方形を呈している。第 6 トレンチ 24 号土坑から開元通賀が検出されており、平成 12 年度本調査地点でも隅丸方形の土坑墓が検出されていることから、これらの遺構は土坑墓である可能性が高いと考えられる。第 5 トレンチでは遺構の上面確認はあるが、竪穴建物の可能性がある遺構も検出された。

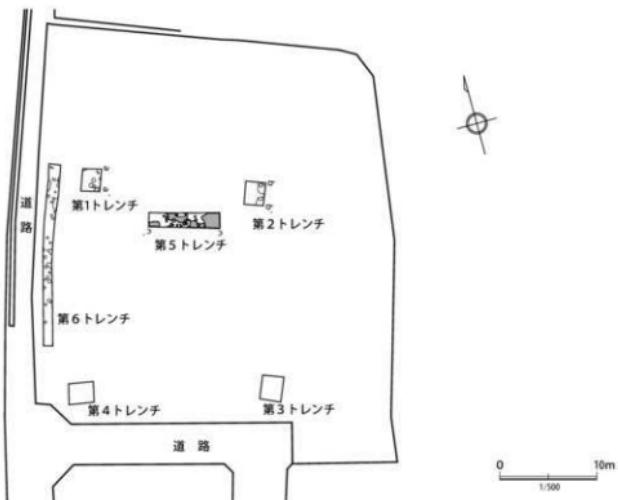
総括

範囲が限定された試掘調査の中で、以下の成果があげられる。

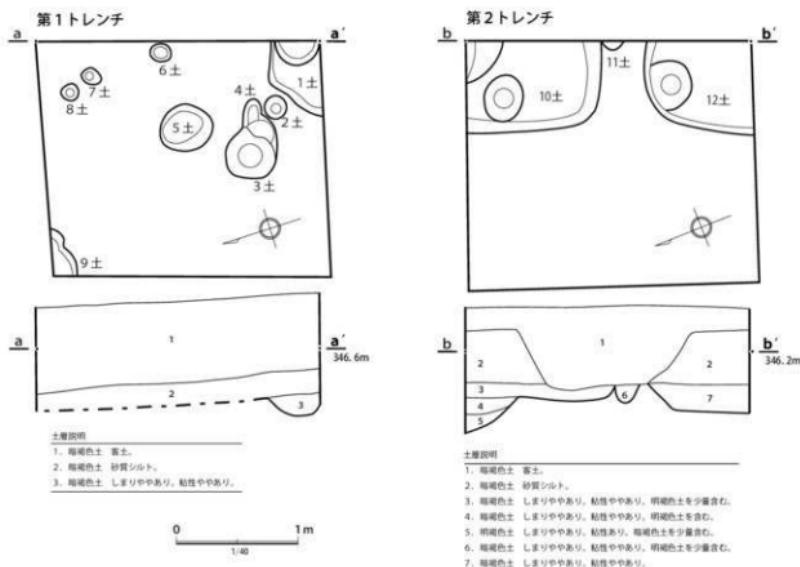
- ① 平成 12 年度に実施した六科・村北遺跡の調査結果と合わせて考えれば、遺構の主体は中世の掘立建物跡や竪穴建物、土坑墓である。
 - ② 調査地点は前御勤使川の南側にほぼ隣接していたにもかかわらず、洪水を示す厚い砂礫層の堆積が認められず、安定した明褐色土シルト層の上に遺構が検出された。これは調査地点周辺が微高地であり、その安定した土地が選択され、六科集落が中世段階で形成され始めたことを示している。
- 調査後、市教育委員会と事業主体者との協議の結果、工事区域のほぼ全域で山梨県教育委員会が規定する遺跡との保護層を確保し、遺跡を埋設保存することで合意した。



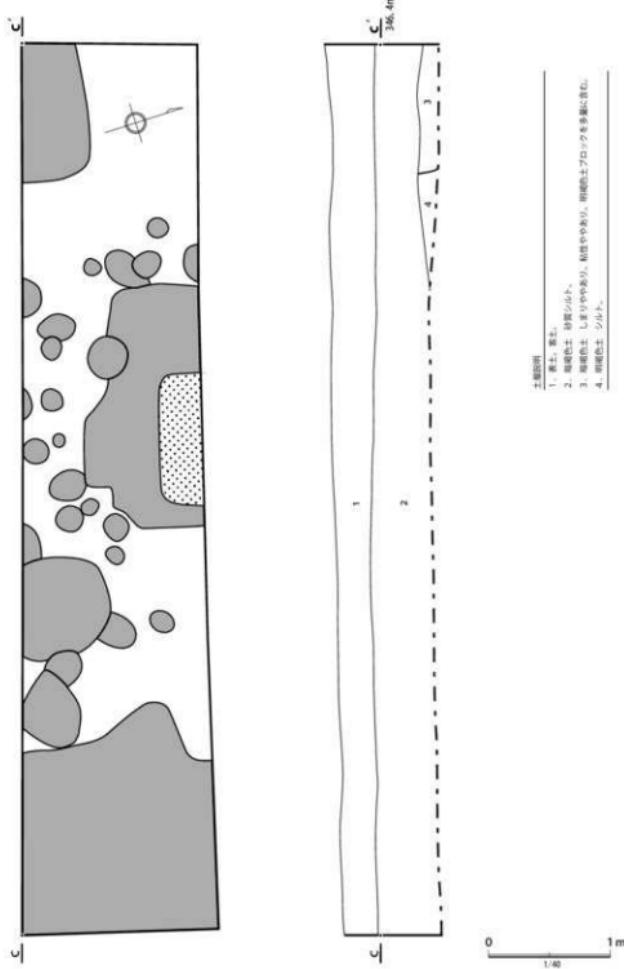
第 1-1 図 調査位置図 (1/5,000)



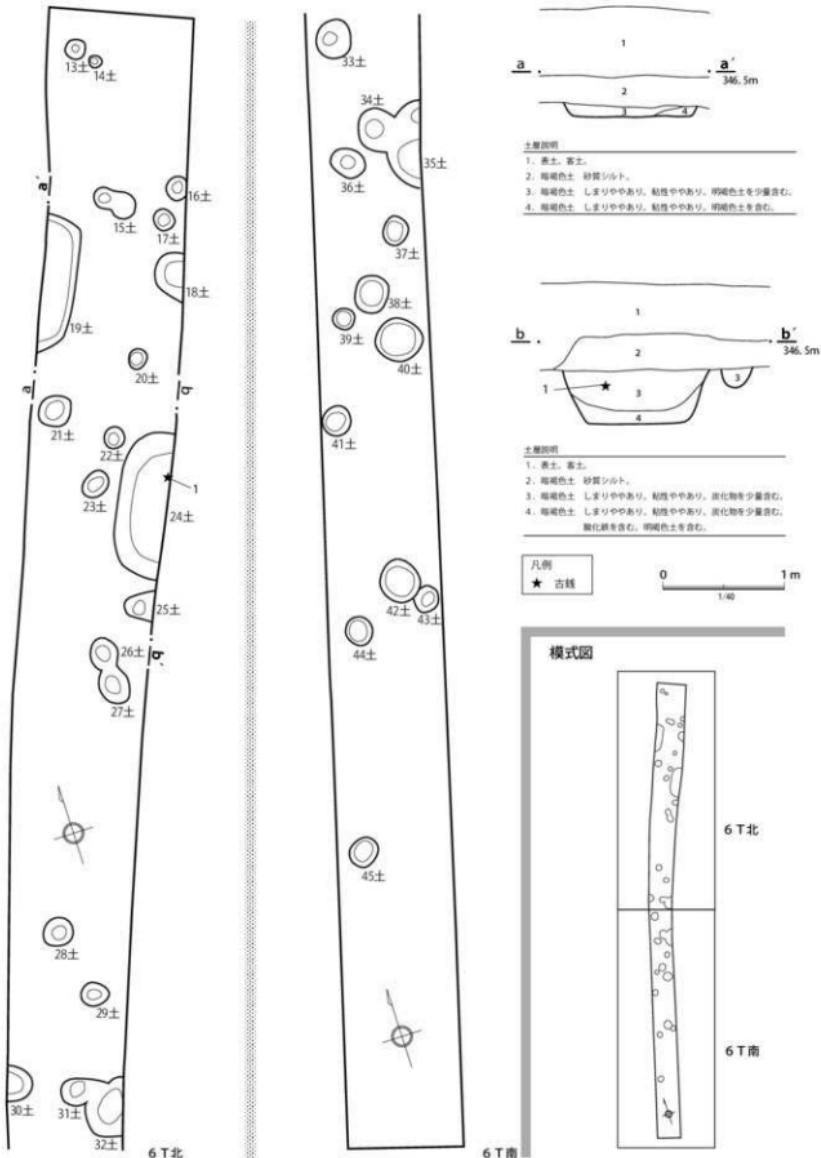
第1・2図 トレンチ配置図 (1/500)



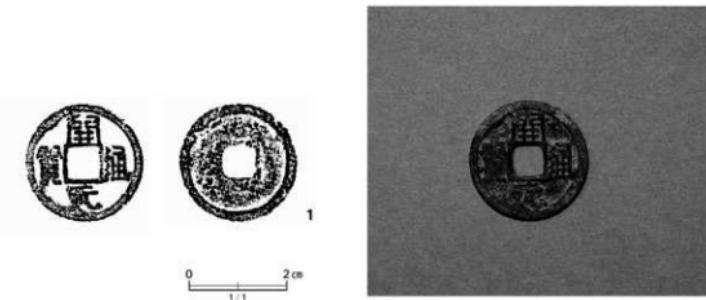
第1・3図 第1・2トレンチ平・断面図 (1/40)



第1-4図 第5トレンチ平・断面図 (1/40)



第1~5図 第6トレンチ平・断面図 (1/40)



第1-6図 第6トレンチ出土遺物

第1-1表 古銭観察表

トレンチ	出土地点	番号	種類	法量 (mm)		重量 (g)	取上げ番号	備考
				長さ	厚さ			
6 T	24号土坑	1	開元通寶	24	1.1	3.0	No. 1	

第1-2表 土坑計測表

土坑 番号	トレンチ	形	径 (cm)	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備考	土坑 番号	トレンチ	形	径 (cm)	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備考
1	1 T	(不規円形)	(60)	(43)	16.2			24	6 T	(楕丸方形)		(124)	(40)	39	古銭、骨片出土
2	1 T	円形	19		4.4			25	6 T	(楕円形)		(22)	(16)	9	
3	1 T	円形	42		37.9			26	6 T	楕円形		26	22	7.8	
4	1 T	楕円形		19	15	5.9		27	6 T	楕円形		32	24	12.3	
5	1 T	楕円形	45	39	14.8			28	6 T	円形	24			10	
6	1 T	円形	16		7.2			29	6 T	楕円形		24	19	10	
7	1 T	楕円形		17	13	5		30	6 T	(楕円形)	(30)	(22)	7.9		
8	1 T	円形	15		2.6			31	6 T	楕円形	(38)	(22)	11.5		
9	1 T	—			5.9			32	6 T	(楕円形)	(44)	(30)	23.4		
10	2 T	(楕丸方形)	(112)	(74)	16.3			33	6 T	円形	31			18	
11	2 T	(円形)	(19)		17.6			34	6 T	楕円形	(36)	(30)	21.3		
12	2 T	(楕丸方形)	(89)	(77)	11.5			35	6 T	(円形)	(72)			15.6	
13	6 T	円形	18		10.1			36	6 T	楕円形		32	24	9.2	
14	6 T	円形	10		6.1			37	6 T	楕円形		24	20	6.5	
15	6 T	楕円形		38	16	19		38	6 T	円形	32			18.5	
16	6 T	円形	20		12			39	6 T	円形	18			6.7	
17	6 T	円形	16		7.4			40	6 T	円形	36			12.9	
18	6 T	(楕円形)	(42)	(22)	13.5			41	6 T	円形					
19	6 T	(楕丸方形)	(116)	(40)	12.7			42	6 T	円形	34			5.6	
20	6 T	円形	14		7.6			43	6 T	円形	23			9.8	
21	6 T	円形	26		17			44	6 T	円形	24			13.9	
22	6 T	円形	20		7			45	6 T	円形	23			16.5	
23	6 T	楕円形		24	18	6									

※ 1・・・ — 調査区外へ遺構が続き、形状不明。

※ 2・・・ () 形状は推定値、径・長軸、短軸は調査区外へ遺構が続く土坑の現存値。



第1トレンチ全景（南から）



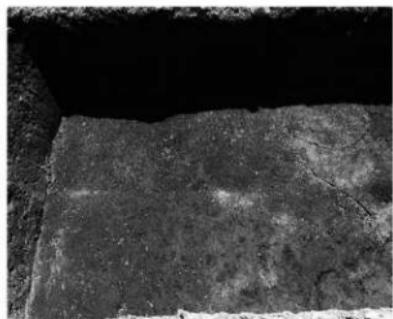
第2トレンチ全景（西から）



第2トレンチ土坑（北から）



第5トレンチ遺構検出状況（東から）



第5トレンチ遺構検出状況（北から）



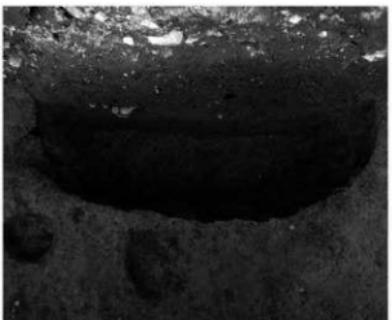
第5トレンチ遺構検出状況（北から）



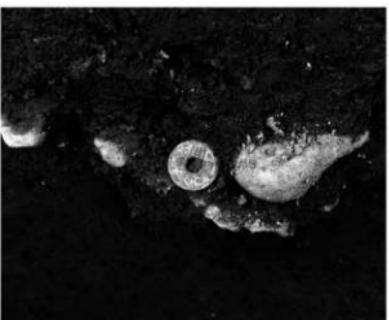
第6トレンチ遺構検出状況（北から）



第6トレンチ全景（北から）



第6トレンチ 24号土坑



第6トレンチ 24号土坑古錢出土状況



第6トレンチ 15~20号土坑



第6トレンチ 30~33号土坑



第6トレンチ 34~37号土坑



調査風景

2. 百々・上八田遺跡

調査地 上八田 53-1 他

調査原因 工場誘致

調査期間 平成 24 年 6 月 6 日～7 月 23 日

対象／調査面積 58,000 m² / 584.54 m²

調査概要

調査地点は御勅使川扇状地扇央部に位置する。西側約 300 m には中部横断自動車道の建設に伴い山梨県理蔵文化財センターによって発掘調査が行われた百々遺跡が立地している。百々遺跡では奈良・平安時代の竪穴建物跡が 250 軒以上検出されており、また中世

の溝状遺構や溜池状遺構なども発見されている。東側約 200 m には真言宗智山派の古寺、八田山長谷寺が立地する。長谷寺は天平年間開創の寺記があり、平安時代中頃と推測されている一本造りの十一面觀音立像を本尊としている。近世においては常襲早魃地帯であった原七郷（上八田・西野・在家塚・上今井・吉田・小笠原・桃園）の守り觀音とされ、雨乞いの祈願所でもあった。

本計画は帝京山梨看護専門学校校舎の甲府駅北口移転に伴い、その跡地に計画された工場誘致に伴う遺跡の試掘調査であり、対象面積は約 58,000 m² に及ぶ。試掘調査は財団法人帝京山梨教育福祉振興会（工事主体者）からの依頼に基づき、平成 20 年度から下記の通り断続的に実施してきた。平成 24 年 5 月、南アルプス市産業立地推進室より、試掘調査が未実施の学校跡地北側の区域における埋蔵文化財の取り扱いについて問い合わせがあり、翌 5 月 14 日付けで、工事主体者より埋蔵文化財試掘調査依頼書が提出された。

本年度は平成 24 年 6 月 6 日に試掘調査に着手し、同年 7 月 23 日に調査を完了した。なお、北部地域で一部試掘調査を実施していない区域がある。

平成 20 年度 第 1 ~ 7 トレンチ 合計 7 トレンチ

平成 21 年度 第 8 ~ 24 トレンチ 合計 17 トレンチ

平成 22 年度 第 25 ~ 32 トレンチ 合計 8 トレンチ

平成 24 年度 第 33 ~ 63 トレンチ 合計 31 トレンチ

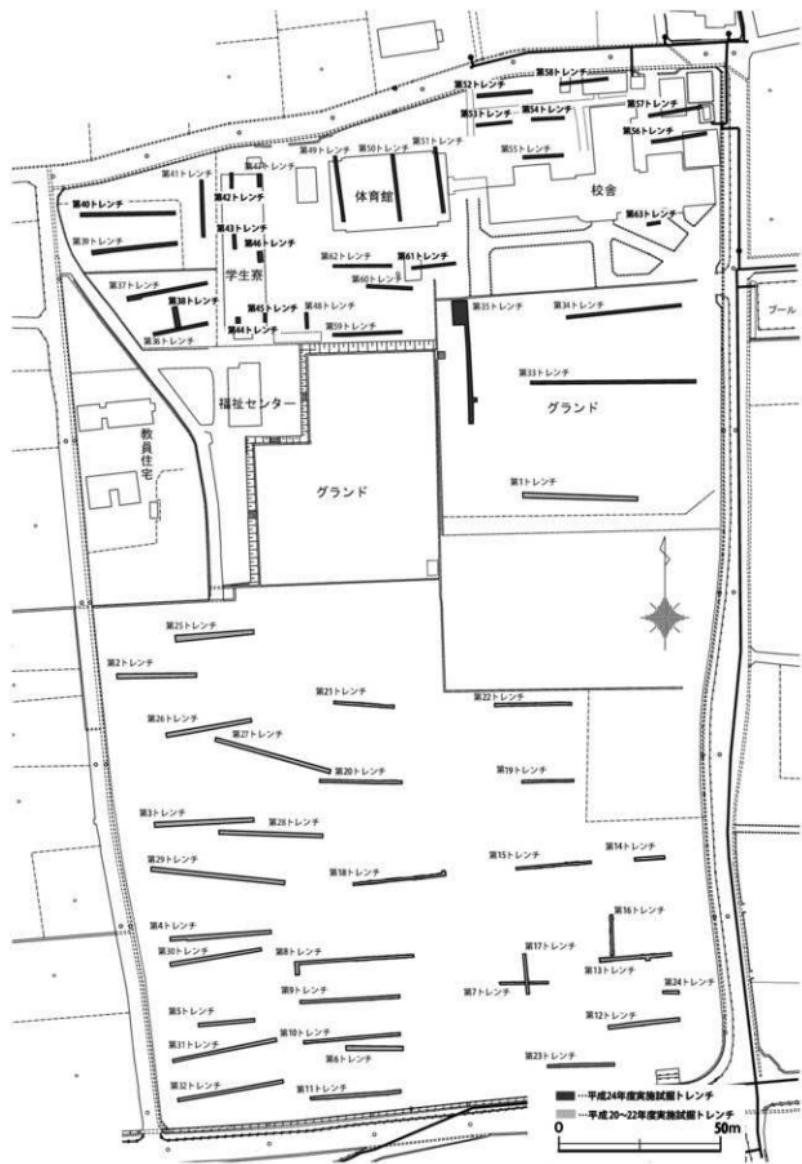
本年度の調査の結果、第 33、35 ~ 41、49、50、52、54、56 ~ 59、61、62 トレンチから遺構が検出され、遺跡が敷地全体に広がっていることが明らかとなった。ただし、空閑地となっていた南側の区域と比べ、旧校舎などが立ち並ぶ北側の区域は、校舎等建設時の造成や構造物撤去時のカクランが多く、遺構が検出されていないトレンチでも本来遺構があった可能性が高い。遺構が発見された場合でも部分的にカクランされていたり、遺構の大部分が削平されていた状況であった。

総括

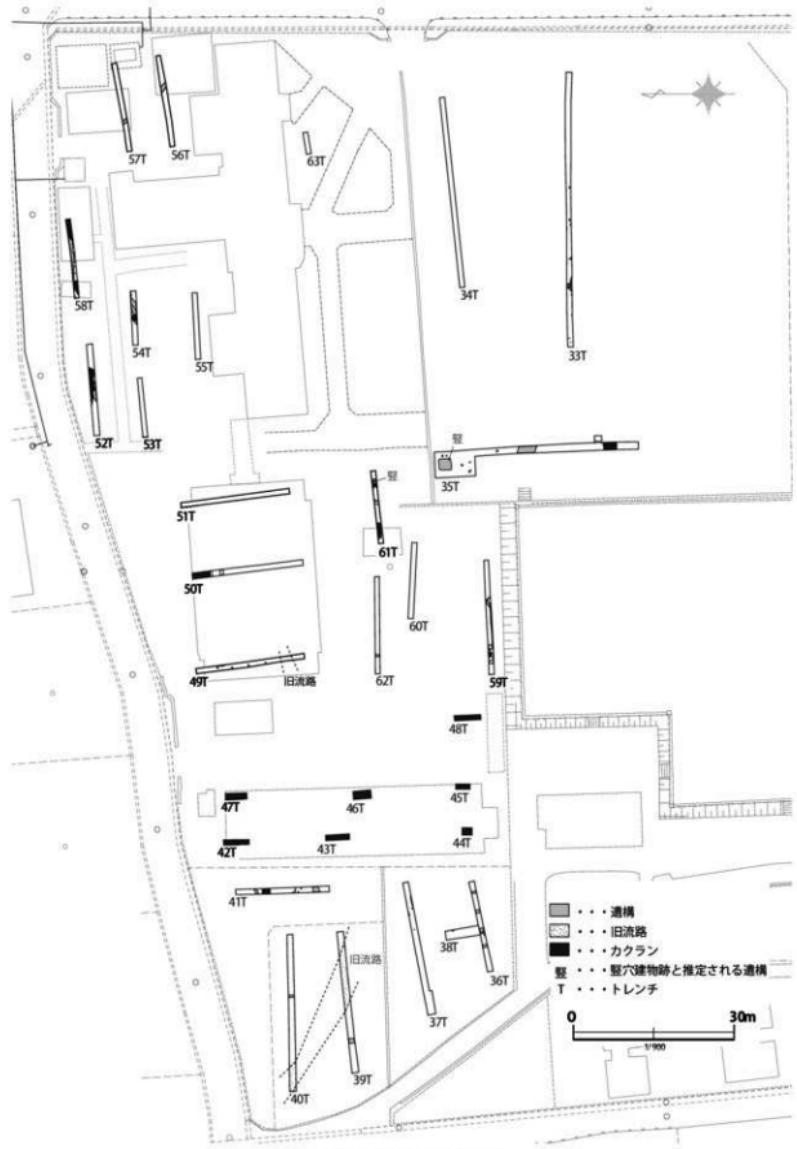
平成 20 年度からの調査結果を総括したい。これまでの調査で竪穴建物跡は 13 軒検出されている。その分布は調査対象範囲南側に集中している。この状況を百々遺跡の遺構分布状況と重ね合わせると、竪穴建物の分布が多いエリアの西側は百々遺跡 1 および 4 の南部、百々遺跡 3 の 2 区に位置している。この区域は百々遺跡でも竪穴建物跡や溜池状遺構など遺構の分布密度が非常に高い地域である。百々遺跡ではこの区域に東西方向に走る流路状遺構も検出されており、この水路は今回の調査区域の南側を通り、長谷寺まで延びていたと推測される。この水路沿いに集落が発達し始めたとも考えられる。



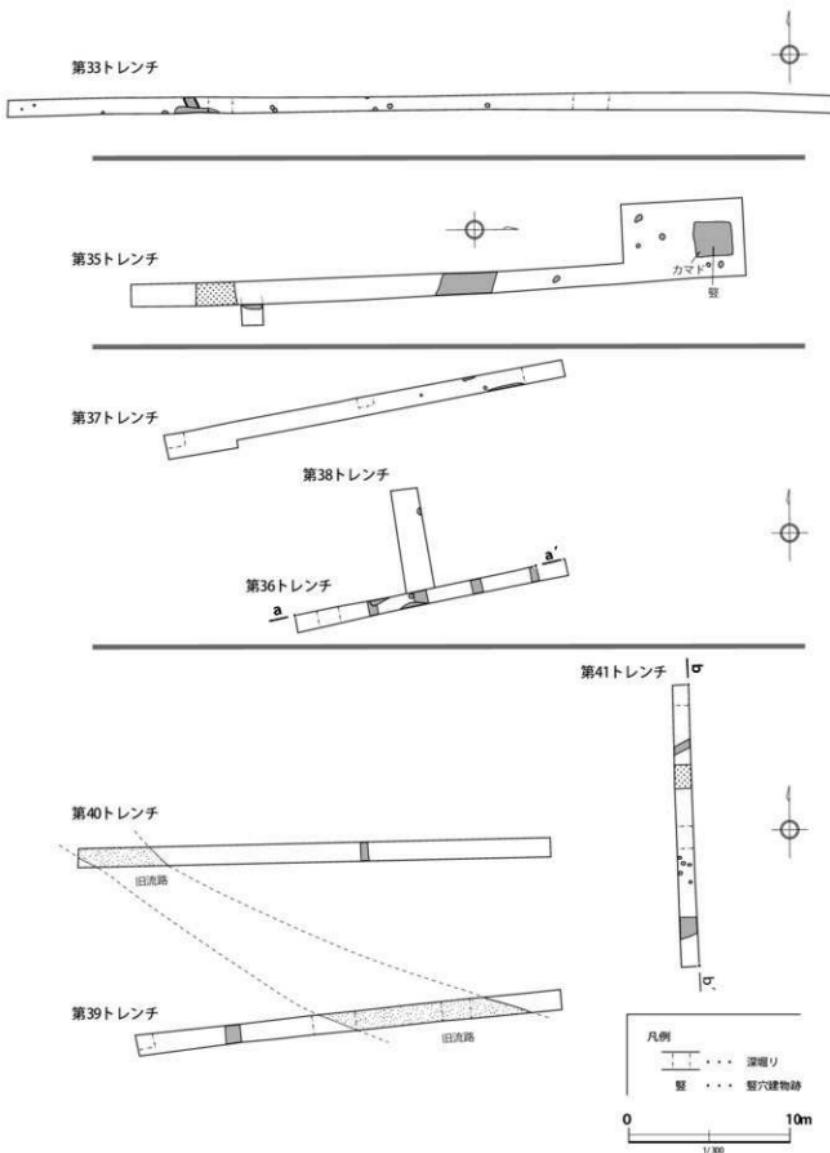
第 2 - 1 図 調査地位置図 (1/10,000)



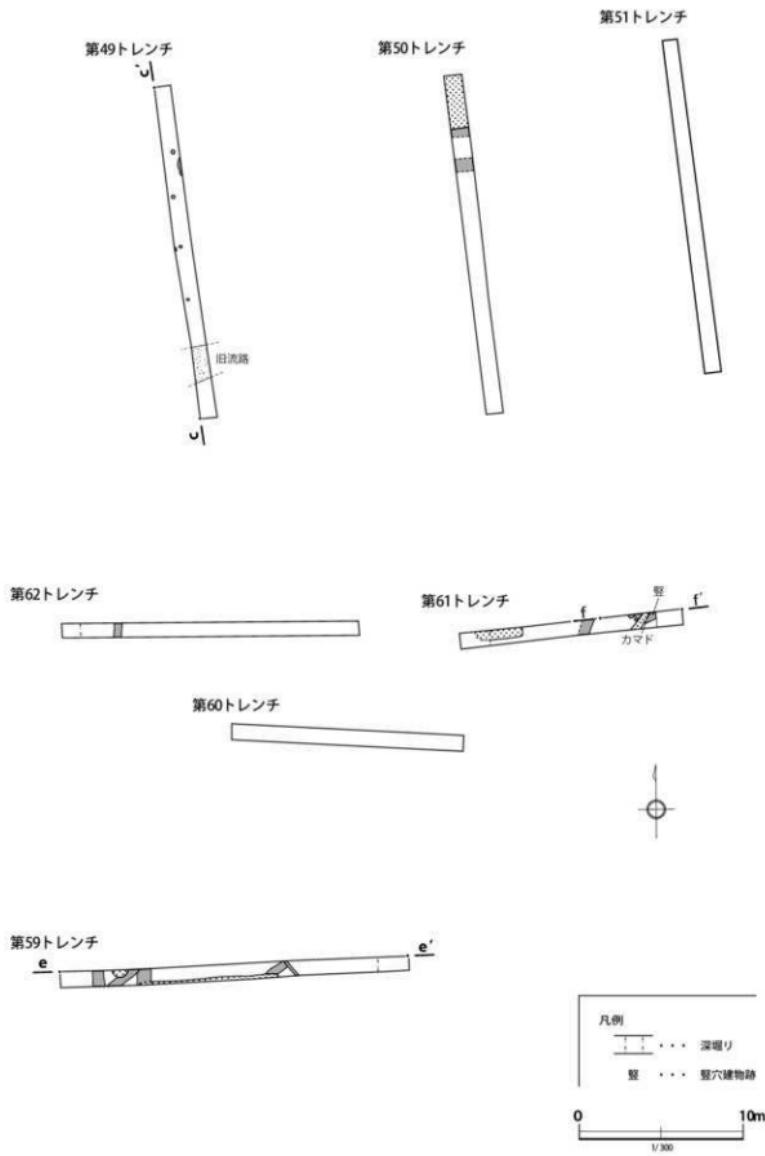
第2-2図 トレーンチ配置図 (1/1,500)

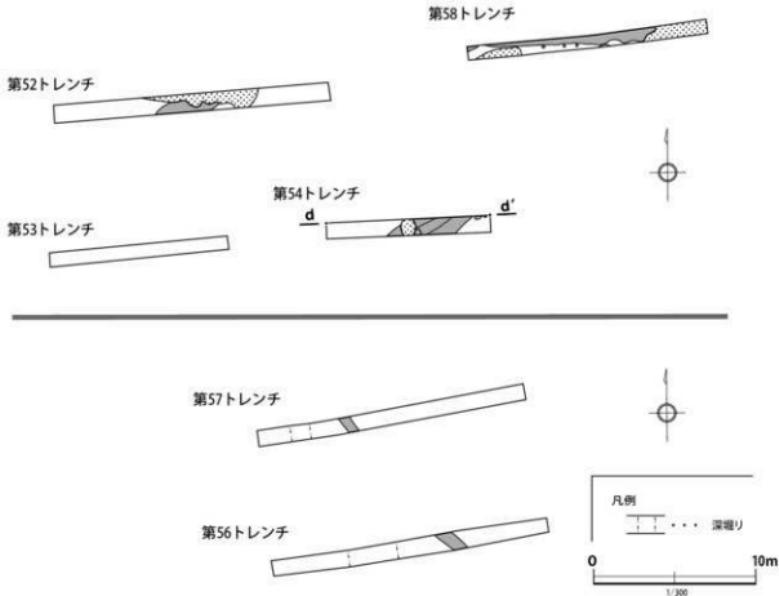


第2・3図 遺構図 (1/900)

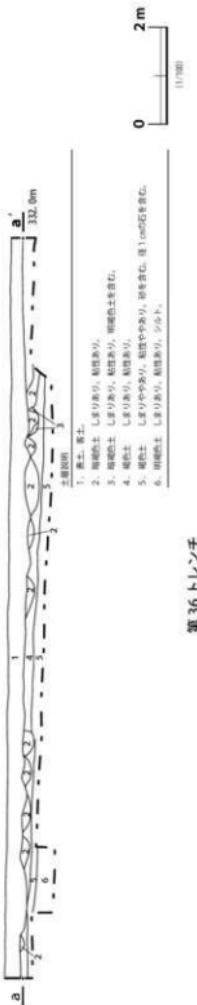


第2-4図 トレンチ・遺構図 (1/300)

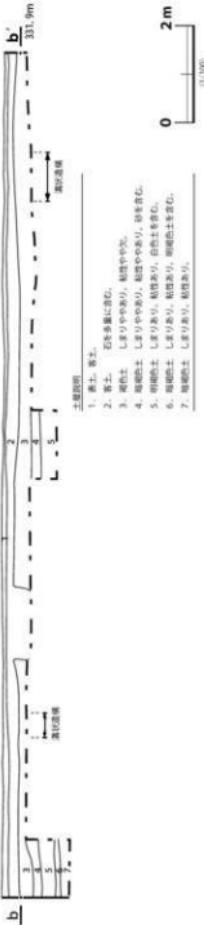




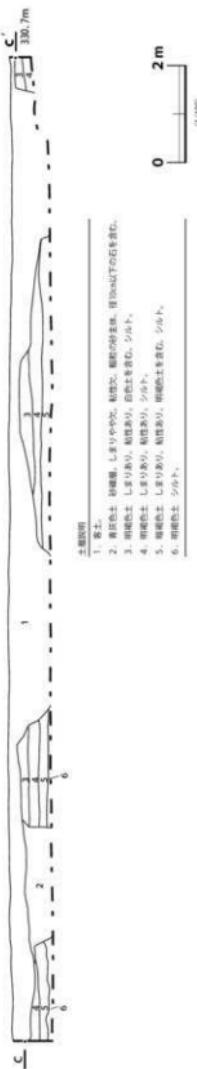
第2・6図 トレンチ・遺構図 (1/300)



第36 トレンチ

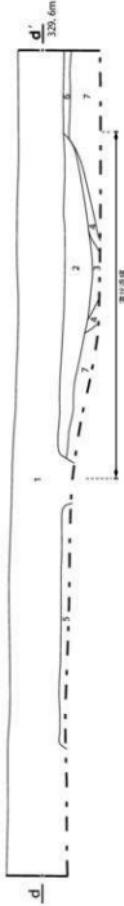


第41 トレンチ



第49 トレンチ

第2 - 7図 第36・41・49 トレンチ断面図 (1/100)

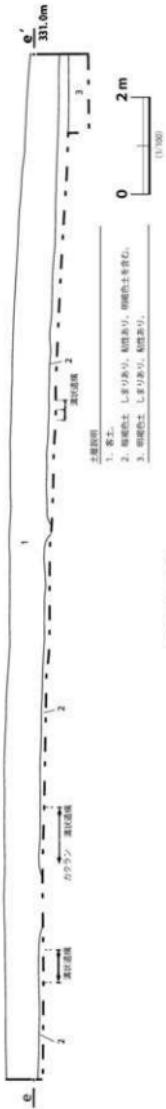


第2-8図 第54・59・61トレンチ断面図 (1/60・1/100・1/40)

第54トレンチ

- 土層剖面
1. 黒土。　2. 黒色土。　3. 黑褐色土。　4. 黑色土。　5. 黑色土。　6. 黑色土。　7. 黑褐色土。
- 測定位置
1. 黒土。　2. 黒色土。　3. 黑褐色土。　4. 黑色土。　5. 黑色土。　6. 黑色土。　7. 黑褐色土。

d'
3.25 m
m



第59トレンチ

- 土層剖面
1. 黒土。　2. 黑褐色土。　3. 黑褐色土。
- 測定位置
1. 黒土。　2. 黑褐色土。　3. 黑褐色土。

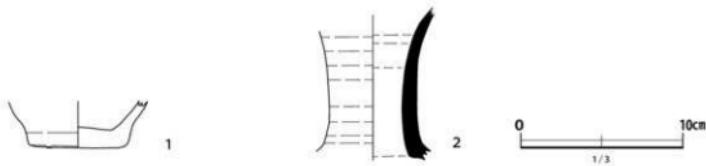
e'
3.11 m
m

m

第61トレンチ

1. 黒土。
2. 黑褐色土。
3. 黑褐色土。　4. 黑褐色土。

f'
3.30 m
m



第2-9図 出土遺物 (1/3)

第2-1表 土器観察表

番号	種別	断面	法量(cm)		残存率 (%)	製作技法		胎土	含有机物	色調 外/内	焼成	注記番号	備考							
			口径	底径		内面	外面													
1	土器器	直	—	61	—	底部	ヨコハケ	やや粗	緑、白色粒子	明赤褐	良	DU.U53.34T								
2	瓦器器	長錐形	—	—	—	底部破片	ロクロ整形	直	黑色・白色粒子	灰	良	DU.U53.56T-1								



第33 トレンチ全景（西から）



第33 トレンチ遺構検出状況（東から）



第34 トレンチ全景（東から）



第35 トレンチ遺構検出状況（西から）



第 35 トレンチ全景（北から）



第 35 トレンチ遺構検出状況



第 36 トレンチ全景（西から）



第 37 トレンチ全景（東から）



第 37 トレンチ全景（西から）



第 38 トレンチ全景（北から）



第38 トレンチ全景（南から）



第38 トレンチ調査風景



第39 トレンチ全景（東から）



第39 トレンチ旧流路検出状況（南東から）



第39 トレンチ旧流路検出状況（西から）



第40 トレンチ全景（東から）



第 40 トレンチ全景（西から）



第 40 トレンチ旧流路検出状況（東から）



第 41 トレンチ全景（北から）



第 41 トレンチ遺構検出状況



第 41 トレンチ調査風景



第 42 トレンチ全景（北から）



第43 トレンチ全景（南から）



第44 トレンチ断面



第45 トレンチ断面



第47 トレンチ全景（北から）



第48 トレンチ断面



第49 トレンチ全景（北から）



第 49 トレンチ全景（南から）



第 50 トレンチ調査風景



第 51 トレンチ全景（北から）



第 52 トレンチ全景（西から）



第 52 トレンチ遺構検出状況（西から）



第 54 トレンチ全景（東から）



第 54 トレンチ全景（西から）



第 55 トレンチ全景（西から）



第 56 トレンチ全景（西から）



第 56 トレンチ遺構検出状況（西から）



第 57 トレンチ全景（西から）



第 57 トレンチ遺構検出状況



第 58 トレンチ全景（東から）



第 58 トレンチ全景（西から）



第 58 トレンチ断面（東から）



第 59 トレンチ全景（西から）



第 59 トレンチ遺構検出状況（西から）



第 60 トレンチ全景（西から）



第61 トレンチ全景（西から）



第61 遺構検出状況（西から）



第61 トレンチカマド検出状況



第62 トレンチ全景（東から）



第62 トレンチ遺構検出状況



第63 トレンチ全景（東から）

3. 前御勅使川堤防址群

調査地 有野 2336-1 他

調査原因 農業基盤整備

調査期間 平成 24 年 11 月 2 ~ 24 日

対象／調査面積 80,000 m² / 72.14 m²

調査概要

調査地点は有野字北新田内の前御勅使川右岸に位置する。現在調査地点北側に東西に走る県道甲斐芦安線は明治 31 年まで前御勅使川の旧流路であり、明治 21 年陸地測量部作成の 1/20,000 地形図や明治期の地籍図などを参照すると前御勅使川の両岸には多くの霞堤が分布している状況がわかる。戦後多くの霞堤が削平され、当時の形状を良好な状態で留めているのは旧運転免許センター南側に位置する「お熊野堤」と呼ばれる堤防跡のほか数地点を数えるにすぎない。調査地点の右岸堤防は現在道路として利用されているが、南北に広がる耕作地より若干高く、堤防の形状をわずかに残している。調査地点の下流約 400 m の地点では、農道支線 A - 1 号建設工事に伴い（財）山梨文化財研究所によって前御勅使川右岸堤防址（百々 1642-1 外）の発掘調査が行われ、明治期の堤防跡が検出されている。その堤防は自然堆積層に砂礫を積んで堤体が造られており、石積みは施されず、川表側に 2 段に積まれた竹蛇籠が設置されていた。

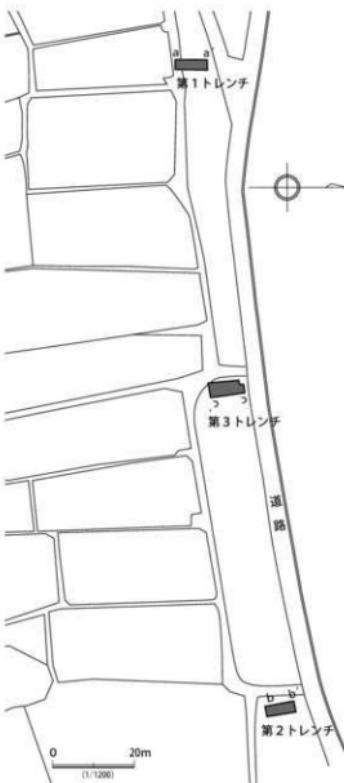
本事業は 80,000 m² における広大なほ場整備に伴う試掘調査であり、明治期の地形図によって堤防跡の存在が推定されている区域に任意寸法のトレンチを 3 箇所設定した。

発見された遺構

調査の結果、第 1 トレンチでは砂礫を主体とした堤防跡を検出した。堤防跡は自然堆積層の可能性がある第 15 層を基盤として、第 13・14 層の砂礫と砂質シルトがかまぼこ状に盛り上げられ、さらに南側に径 9 ~ 25 cm の石を主体とする第 11 層が積み上げられ、堤体が構築されていた。ただし第 11 層は褐色土を含み、堤体の 13 層と明らかに土質が異なっていることから、この堤体を覆う次段階の堤体の一部である可能性がある。第 13 層を主体とした堤体の北側には径 10 ~ 30 cm の石を主体とした石積みが施されていた。



第 3-1 図 調査地位置図 (1/10,000)



第 3-2 図 トレンチ配置図 (1/1,200)

石積みは無造作に積まれた印象を受け、非常に崩れやすい状況であった。石の積み方にかみ合わせを考えた規則性は認められないが、堤防の川表側を保護する石積みの一つであった可能性を考えておきたい。

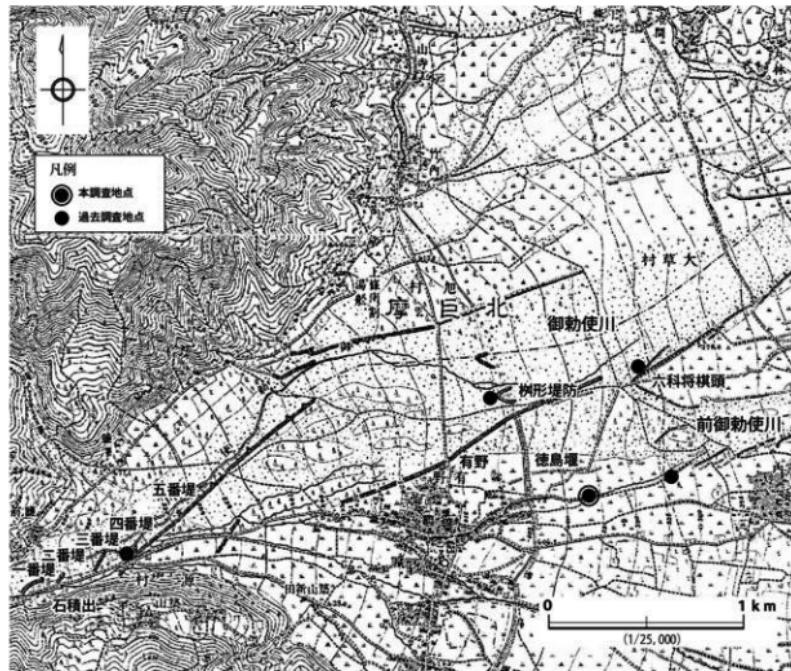
第2トレンチでは造成時と考えられる客土が主体で、明確な遺構は検出されなかった。

第3トレンチでは、トレンチの南北にそれぞれ東西に伸びる堤防2基を検出した。南側で検出された堤防を仮に堤体A、北側を堤体Bとする。堤体Aは第9層の褐色土砂質シルトを主体としている。検出範囲が狭いため堤防でない可能性もあるが、断面が堤防状の形態をとることから、堤防として判断した。石はほとんど含まれていない。洪水堆積層の7層によって覆われている。一方北側の堤体Bは第8層の砂質シルトと砂礫を主体とした堤防で、長径65cmの石も含まれている。第7層の洪水によって堤体南側が削られており、特にトレンチ西側での浸食が激しい。

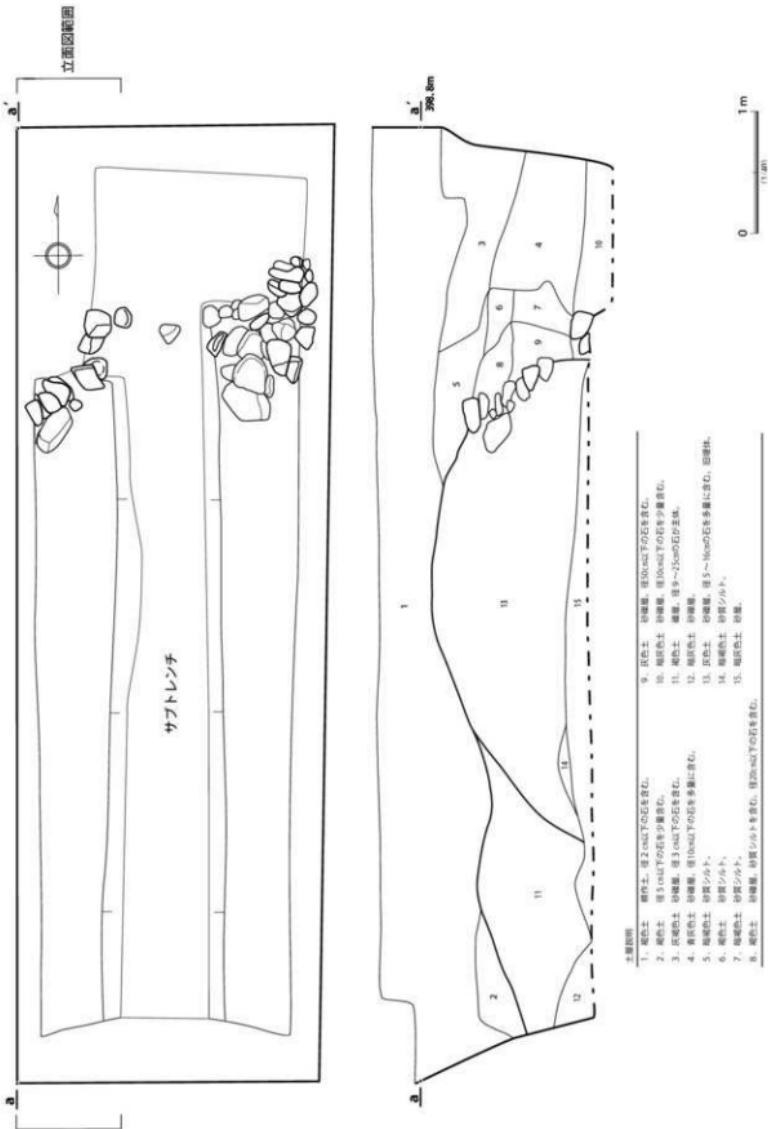
総括

試掘調査の結果、前御勅使川右岸の堤防跡が検出された。第2トレンチでは2基の堤防跡が重複している可能性もある。

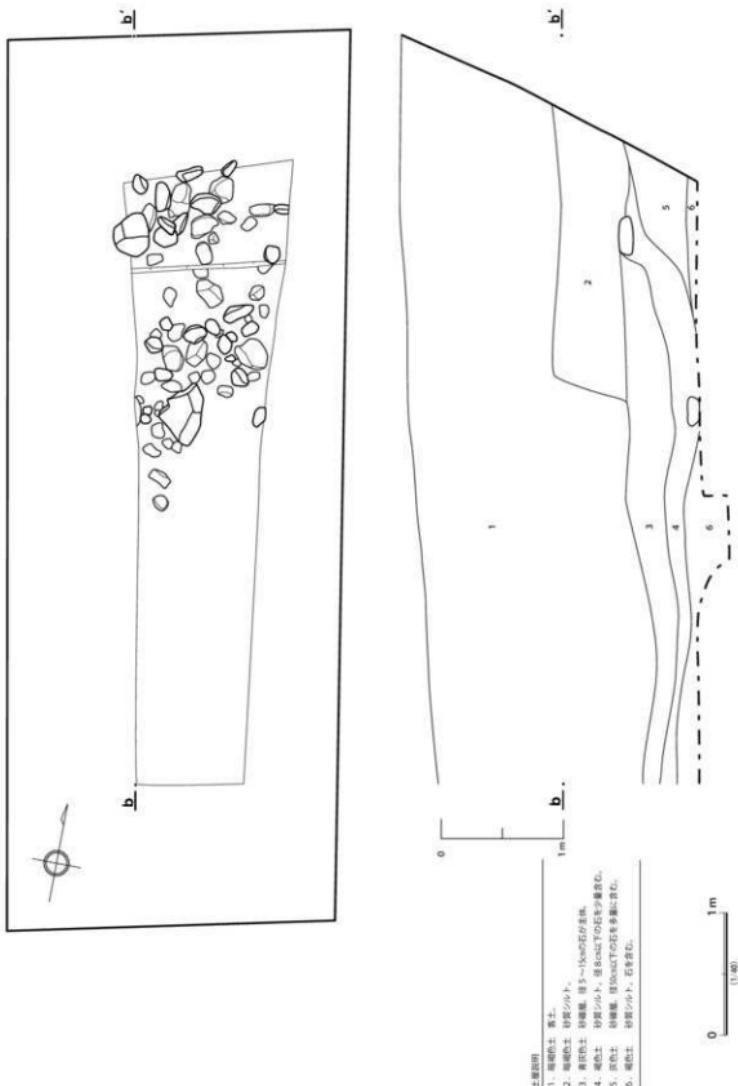
ほ場整備の計画では堤防を検出した箇所では耕地全体を下げる切土が予定されており、計画変更もできないことから、市教育委員会と工事主体者（中北農務事務所）との協議の結果、掘削される区域を対象に平成25年度記録保存として本発掘調査を実施することで合意した。

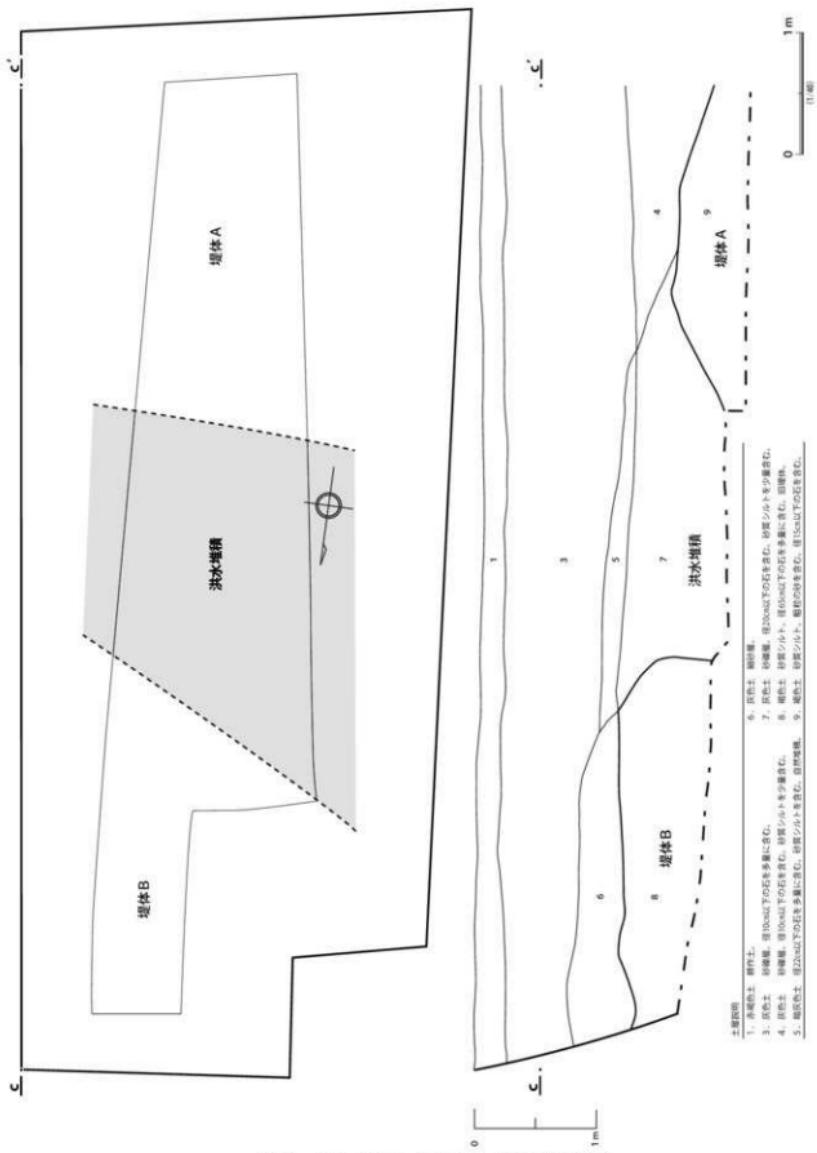


第3・3図 明治21年測量 同43年第一回修正 大正5年製版地形図 (1/25,000)



第3・4図 第1トレンチ平・断面図 (1/40)





第3-6図 第3トレンチ平・断面図 (1/40)



第1トレンチ全景（北から）



第1トレンチ石積み検出状況（北から）



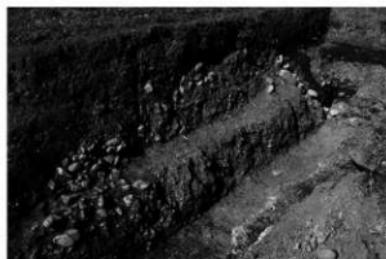
第1トレンチ全景（北東から）



第1トレンチ堤防断面（東から）



第1トレンチ堤防断面（東から）



第1トレンチ堤防断面（南東から）



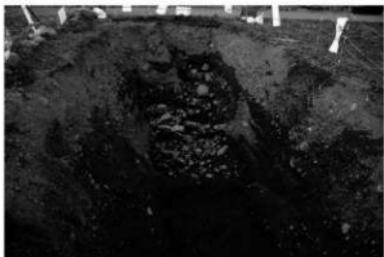
第2トレーナー全景（南東から）



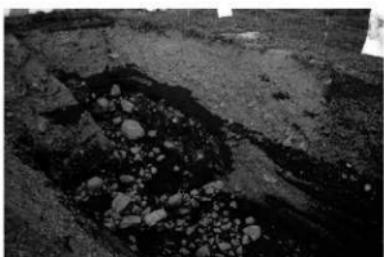
第2トレーナー調査区断面（西から）



第3トレーナー（南東から）



第3トレーナー（南から）



第3トレーナー（南西から）



第3トレーナー堤防断面（西から）

4. 下屋敷遺跡、無名塚

調査地 山寺 1100-2 他

調査原因 集合住宅

調査期間 平成 24 年 12 月 25 日～平成 25 年 4 月 8

日

対象／調査面積 1,996 m² / 121.84 m²

調査概要

調査地点は漆川扇状地の扇頂から扇央部に立地し、標高約 302 m を測る。調査区域は扇状地の地形に合わせ、西から東へ傾斜する緩斜面となっている。漆川の南には市之瀬川が流れ、両河川の間には複合扇状地

が形成されている。漆川扇状地および南の複合扇状地上は、南アルプス市でも遺跡が濃密に分布する地域であり、繩文時代中期の集落鉄物師屋遺跡や木遺跡をはじめ多数の遺跡が分布している。とりわけ後期古墳が集中する地域であり、遺跡の分布調査によって富士塚古墳、コウモリ塚古墳、鉄物師屋古墳、塚原上村古墳の他複数の無名塚が確認されている。

本試掘調査は集合住宅建設・造成工事に伴うもので、合計 11 箇所トレンチを設定した。調査地点には無名塚 (KG-148) が埋蔵文化財包蔵地に記載されていたが、現状では畑の石の廃棄場所として盛られた石塚以外、墳丘状の遺構は確認できない状況であった。

発見された遺構と遺物

調査の結果、古墳は検出されなかったが、第 3・7・8・9・10 トレンチで石壙状の遺構が発見された。

石壙状遺構

幅約 3.2 ~ 4 m、高さ約 1.2 m を測る。確認した範囲での全長は約 47 m、南北とともに調査区外へ続いている。石壙状遺構は大小さまざまな石と暗褐色土で構成され、その断面形態はややいびつなかまぼこ状を呈する。第 3・7・9 トレンチの状況から、石壙状遺構西側の基底部は 25 ~ 45cm の人頭大の石が 1 ~ 2 段に置かれており、その上に大小さまざまな大きさの石が積まれている。一方東側基底部ではとりわけ大きな石を使うなどの構造は見られなかった。第 3 トレンチの断面図を見るとより詳細に石壙状遺構の構造が把握できる。すなわち、自然堆積層と考えられる第 25 層の上に径 20cm 以下の石を含む暗褐色土の第 24 層が人為的に積まれ、その上に径 15cm 前後の石を主体とする第 22 層が積みあげられている。石壙状遺構を構成する石は谷積み等の規則性が認められず、無造作に積まれている。この石積みは暗褐色シルト層を主体とした第 19・20 層で覆われており、人為的に被覆されていた可能性もある。石壙状遺構東側は基本的に洪水による砂礫や砂質シルトなどが堆積しているのに対し、西側は褐色土シルトと暗褐色土シルトが堆積しており、それぞれ異なった堆積状況となっている。第 3 トレンチの断面観察から、石壙状遺構が構築された時点では、東側の第 3 ~ 16 層および西側の第 17・18 層は堆積していなかったと考えられる。

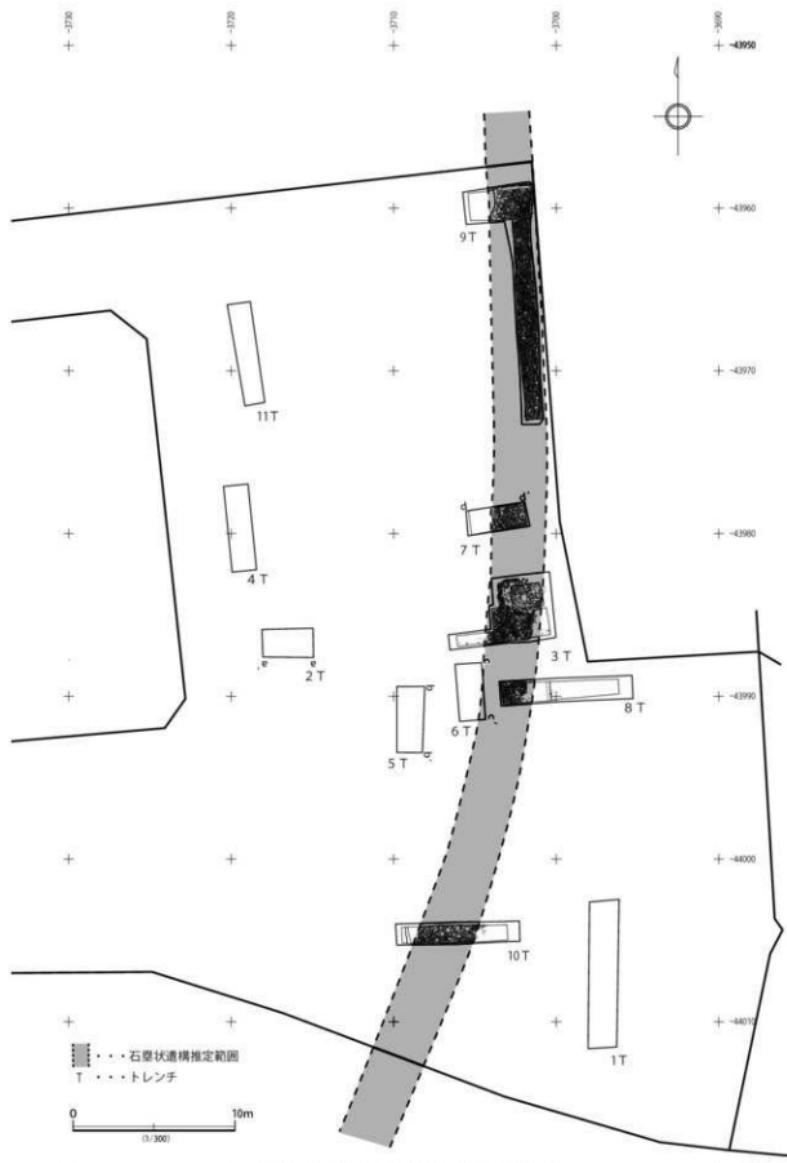
遺物は第 3 トレンチの石壙状遺構上から土器片が 1 点、第 9 トレンチの石壙状遺構内から土器と陶器が 1 点づつ検出された。これらの土器片から遺構は中世から近世の構築と推測される。また第 3 トレンチからは棒状の鉄製品が発見されている。長さ約 3.0cm、径約 0.9cm を測る。

総括

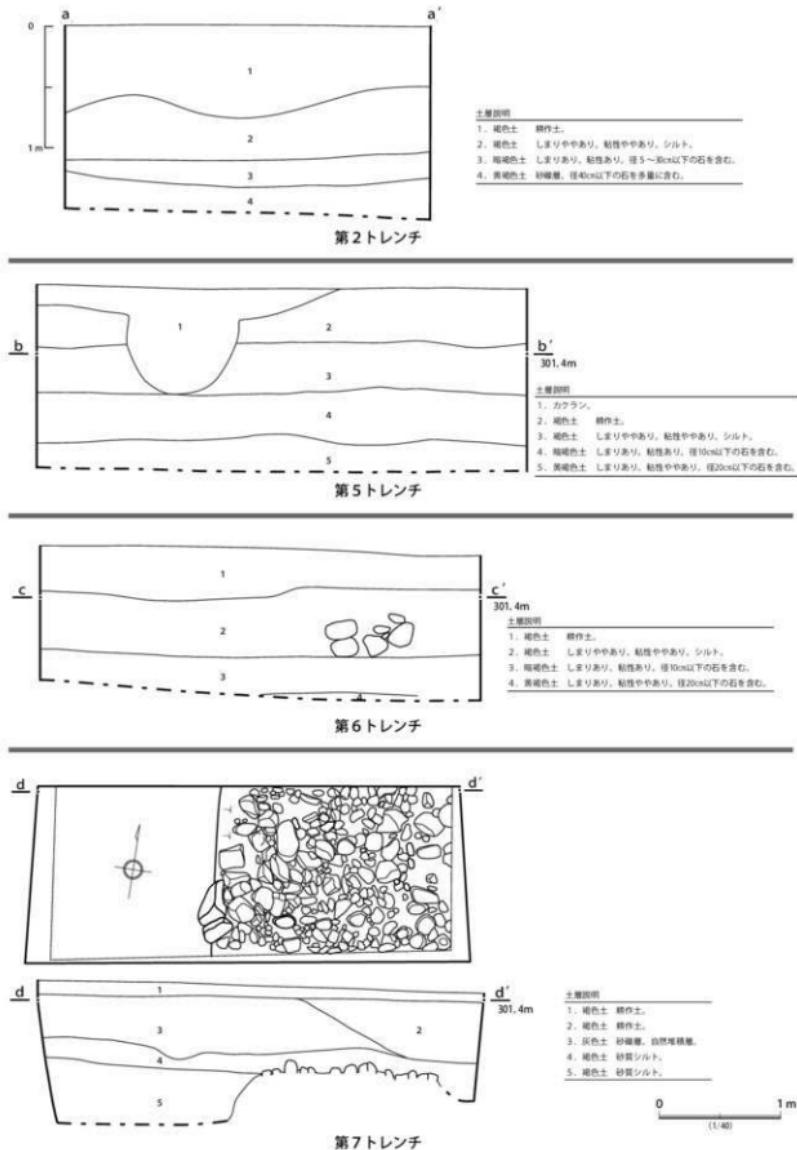
検出した遺構の時代、役割について総括したい。まず時代は 3 点の土器から判断するためあくまで可



第 4 - 1 図 調査地位置図 (1/5,000)



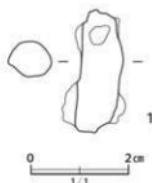
第4-2図 トレンチ配置図 (1/300)



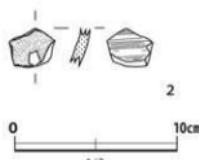
第4・3図 第2・5・6トレンチ断面図および第7トレンチ平・断面図 (1/40)

能性にとどまるが、2点は石壙状遺構内から出土しており、近世以降の遺構と推測される。次にその役割を考えた場合、土留めや畠の石の廃棄場所として盛られた帶状の石塚、土地区画の境界などが推測される。土留めと考えるには石壙状遺構西側の覆土が明確に人為的に客土されたものであるか不明であり、また造成された土を留めるには石壙状遺構の構造が脆弱である。石塚や境界としても同じ構造をもつ類例が県内では見当たらず、特定が難しい。役割については今後の類例を待って再度検証したい。

なお、市教育委員会と工事主体者との協議の結果、よう壁設置箇所以外の区域を埋設保存とし、山梨県教育委員会が規定する工事掘削底と遺跡との間に規定の保護層を確保し、遺構を現地保存することで合意した。



第3トレンチ

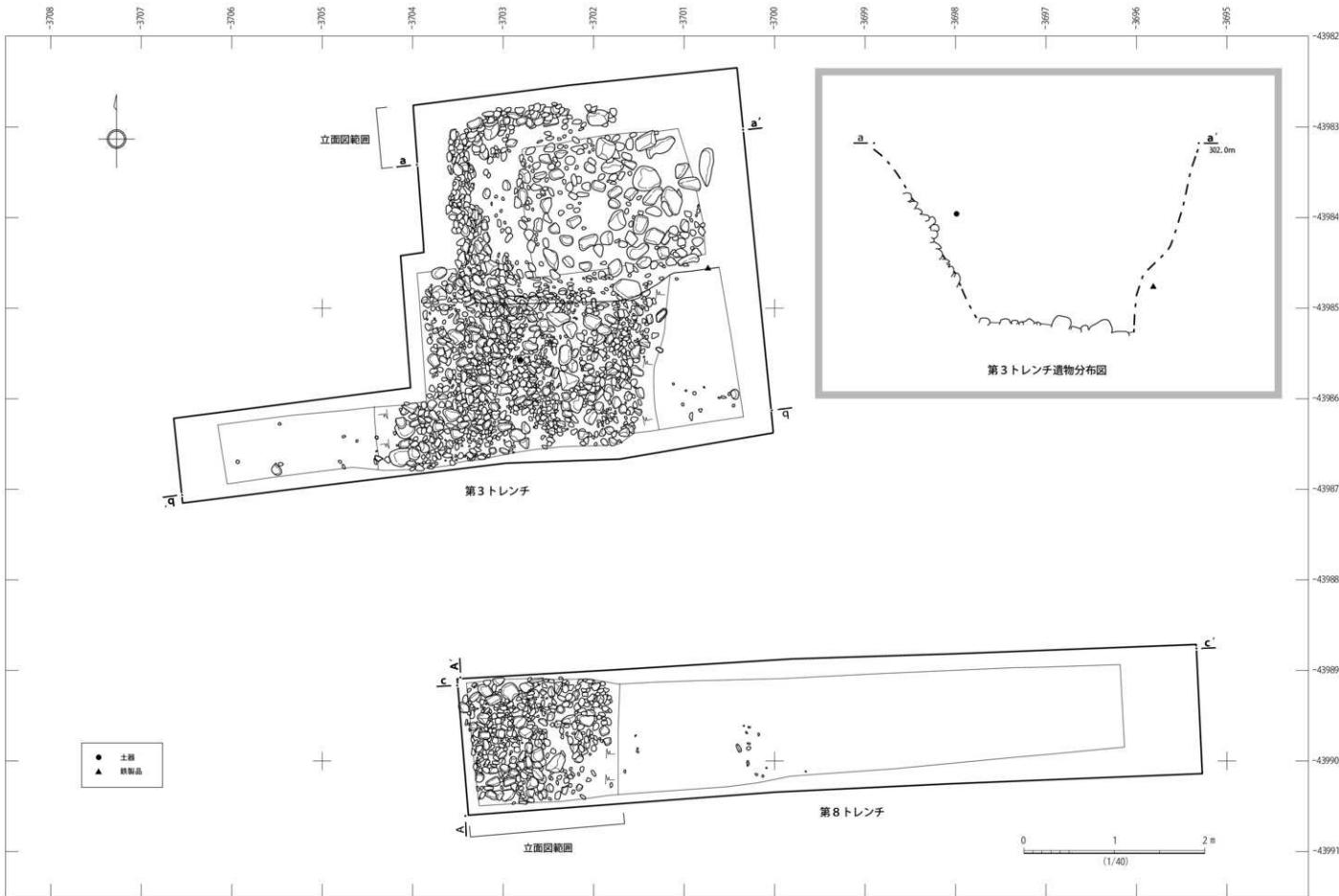


第9トレンチ

第4・4図 出土遺物 (1/1、1/3)



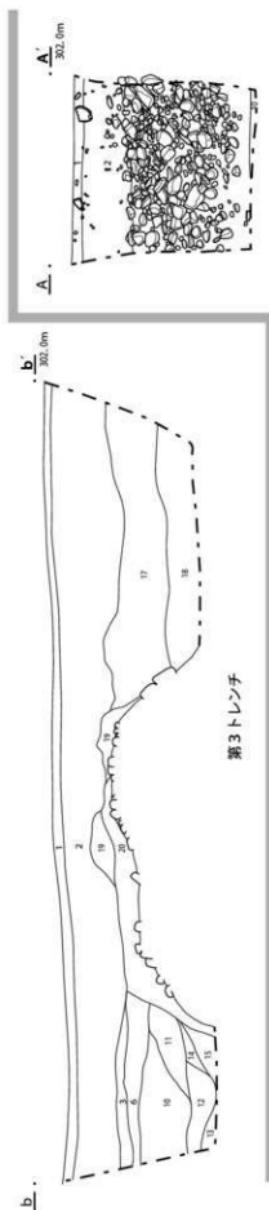
出土遺物



第4・5図 第3トレンチ平面・遺物分布図、第8トレンチ平面図 (1/40)



1. 黄褐色土 剥離土。
2. 黄褐色土 砂質土。第3段階下の石を多量に含む。
3. 黄褐色土 砂質シルト。
4. 黄褐色土 泥炭。
5. 黄褐色土 砂質。
6. 黄褐色土 砂質層。剥離シルトを含む。第2段階下の石を含む。
7. 黄褐色土 泥炭層。第3段階下の石を含む。
8. 黄褐色土 砂質土。下には砂質シルトを含む。
9. 黄褐色土 泥炭。
10. 黄褐色土 泥炭層。第3段階下の石を含む。ラミナイトが岩質シルトを含む。
11. 黄褐色土 泥炭層。細粒の砂と砂質シルトが混在。
12. 黄褐色土 砂質。
13. 黄褐色土 泥炭。
14. 黄褐色土 剥離土。

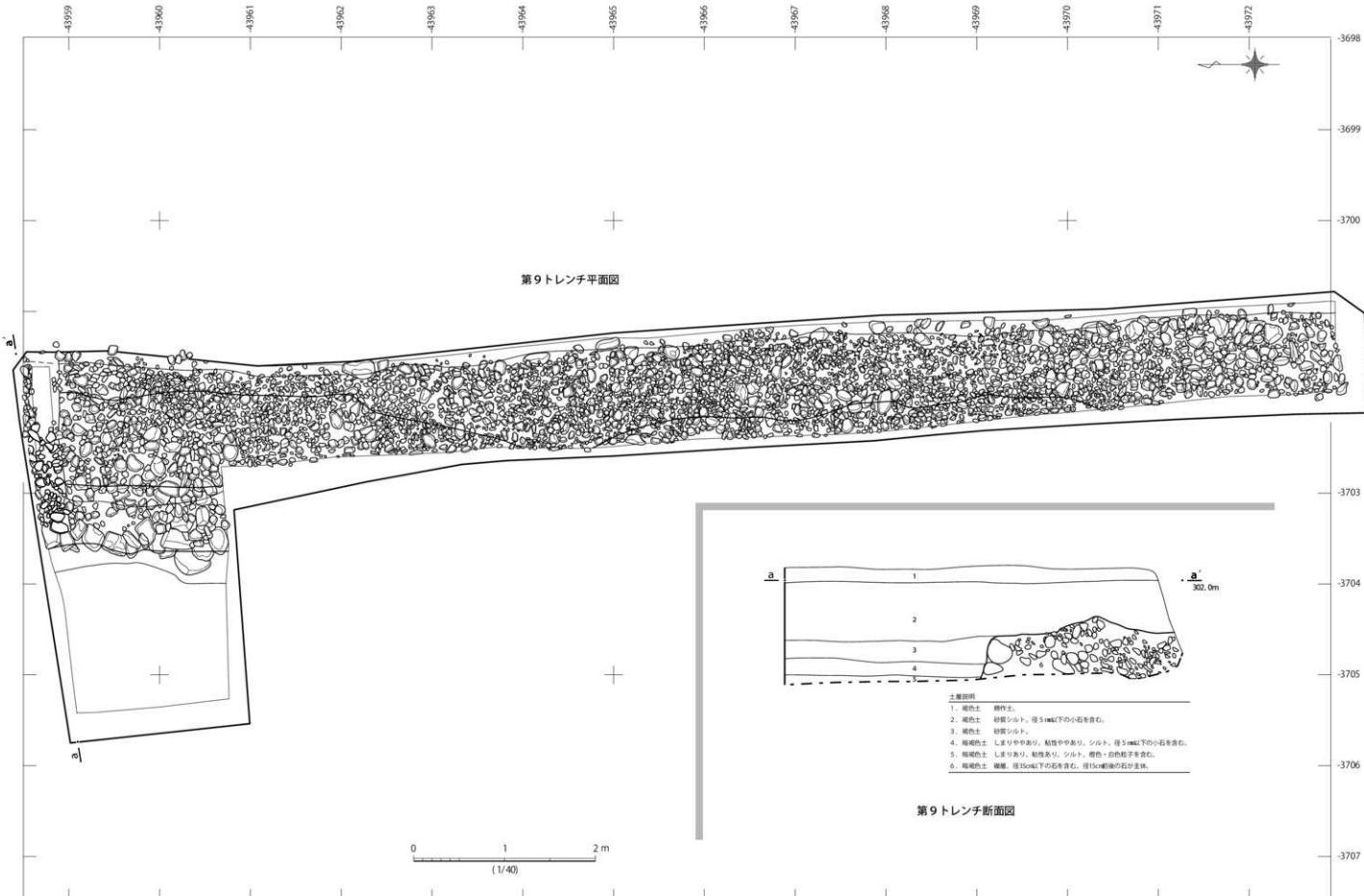


15. 剥離土 シルトと砂が混在。
16. 砂色土 しまりがちで、粘性ややあり、第3段階下の石を多量含む。
17. 砂色土 砂質シルト。
18. 剥離土 しまりがちで、粘性ややあり、第3段階下の石を含む。白色地岩粉を含む。
19. 剥離土 しまりがちで、粘性ややあり、石を多量含む。
20. 剥離土 しまりがちで、粘性ややあり、第3段階下の石を含む。
21. 剥離土 しまりがちで、粘性ややあり、第3段階下の石を含む。
22. 剥離土 泥炭層。粗粒の砂を含む。
23. 灰色土 泥炭層。第2段階下の石を含む。
24. 剥離土 しまりがちで、粘性ややあり、第3段階下の石を含む。白色地岩粉を含む。
25. 剥離土 しまりがちで、粘性ややあり、第3段階下の石を含む。白色地岩粉を含む。
26. 剥離土 しまりがちで、粘性ややあり、白色地岩粉を含む。

第4-6図 第3・8トレンチ断面立面図 (1/40)



第4 - 7図 第10トレンチ平・断面図 (1/40)





第1トレンチ全景（東から）



第2トレンチ全景（南東から）



第3トレンチ全景（南東から）



第3トレンチ石壁状遺構（東から）



第3トレンチ石壁状遺構（南南東から）



第3トレンチ北壁断面（南から）



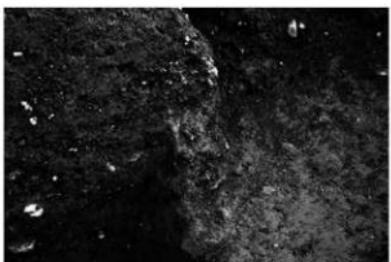
第3トレンチ石壘状遺構（北東から）



第3トレンチ南壁断面（北から）



第3トレンチ南壁断面（北から）



第3トレンチ棒状鉄製品検出状況



第3トレンチ石壘状遺構断面（東から）



第3トレンチ調査風景（北から）



第4 トレンチ全景（南から）



第5 トレンチ全景（南西から）



第6 トレンチ全景（北西から）



第7 トレンチ全景（東から）



第7 トレンチ石壁状遺構（西から）



第7 トレンチ石壁状遺構（北から）



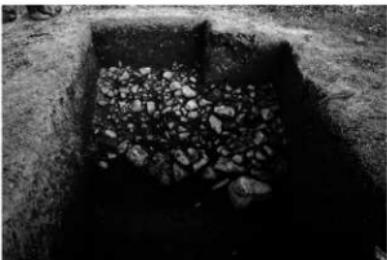
第7 トレンチ石壁状遺構



第8 トレンチ石壁状遺構（東から）



第9 トレンチ石壁状遺構（南から）



第9 トレンチ石壁状遺構（西から）



第9 トレンチ石壁状遺構（西から）



第9 トレンチ石壁状遺構（北から）



第9トレンチ全景（北から）



第9トレンチ石壠状遺構（東から）



第9トレンチ石壠状遺構（南から）



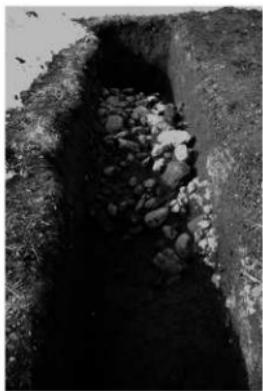
第9トレンチ石壠状遺構（北から）



第9トレンチ調査風景（西から）



第10トレンチ全景（東から）



第10 トレンチ全景（東から）



第10 トレンチ石墨状遺構（西から）



第11 トレンチ全景（北から）



調査風景



調査風景



調査風景

報 告 書 抄 錄

ふりがな	へいせい 24ねんどまいぞうぶんかざいしきつちょうさほうくしょ
書名	平成24年度埋蔵文化財試掘調査報告書
副書名	各種開発工事に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書
シリーズ名	南アルプス市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第38集
編著者名	斎藤秀樹
編著機関	南アルプス市教育委員会
所在地	〒400-0492 山梨県南アルプス市鮎沢1212 TEL055-282-7269
発行年月日	2014年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	標高 (m)	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号	(世界測地系)	(世界測地系)				
六科・村北遺跡、 前御動便川堤防跡群	六科 1539-2	19208	HT-6 HT-46	35° 39' 27"	138° 26' 51"	346	2012年5月11～15日	57.5	宅地造成(分譲住宅)
百々・上八田遺跡	上八田 53-1他	19208	SN-3	35° 39' 31"	138° 28' 41"	330	2012年6月6日～7月 23日	584.54	工場説教
前御動便川堤防跡群	有賀 2336-1他	19208	HT-46	35° 39' 26"	138° 26' 51"	398	2012年11月2～24日	72.14	農業基盤整備
下屋敷遺跡、無名塙	山寺 1100-2他	19208	KG-147 KG-148	35° 36' 13"	138° 27' 32"	302	2012年12月25日～ 2013年4月8日	121.84	集合住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
六科・村北遺跡、 前御動便川堤防跡群	散布地、堤防	中世	竪穴状造構、土坑、 土坑墓	土器、古錢	
百々・上八田遺跡	散布地	奈良～中世	竪穴建物、溝状造構、 土坑	土器、土師器、須恵器	
前御動便川堤防跡群	堤防	中世～近代	堤防跡	なし	
下屋敷遺跡、無名塙	散布地、古墳	古墳前期～古墳後期、 平安時代	石壇状造構	土器、陶器、棒状鉄製品	

南アルプス市埋蔵文化財調査報告書 第38集
山梨県南アルプス市

平成24年度埋蔵文化財試掘調査報告書

発行日 2014年3月31日

発行者 南アルプス市教育委員会
〒400-0492
山梨県南アルプス市鮎沢1212
TEL 055-282-7269

印刷所 株式会社サンニチ印刷
〒400-0058
山梨県甲府市宮原町608-1
TEL 055-241-1111
FAX 055-241-1220

